

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
専門学校 日産京都自動車大学校		昭和63年3月14日		川嶋則生		〒613-0033 京都府久世郡久御山町林八幡講27番地6 (電話) 0774-46-1123																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人日産学園		昭和58年2月15日		神田昌明		〒329-0604 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120番地 (電話) 0285-56-3585																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																															
工業	工業専門課程	自動車整備・ボディリペア科		令和元年度 文部科学省認定	—																															
学科の目的 自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																																				
認定年月日 令和4年3月25日																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3	昼	2,800時間		930時間	—	1,870時間	—	—																												
生徒総定員								時間																												
生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																												
105人		29人		1人		0人		17人																												
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 優(80点以上)、良(60点以上)、可(60点未満) 評価の方法: 筆記試験、実技試験(実習)を実施																														
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■春季: 4月28日～5月5日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■秋季: 10月28日～11月5日 ■冬季: 12月20日～1月10日 ■学年末: 3月20日～3月31日			卒業・進級 条件		学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 全ての教科において規定出席率を満たし、未履修がなければ進級・卒業を認める。																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人との面談、保護者への連絡、場合によっては家庭訪問等で面接を行い、改善指導を行っている。また、専門カウンセラーによるカウンセリングを定期的に行っている。 学生の動向に関する情報は共有し、注視している。			課外活動		■課外活動の種類 スーパーGT300レース、スーパー耐久レース 野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、バドミントン部、ロッククライミング部、自動車整備部、自動車競技部など ■サークル活動: 有																														
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 日産圏企業をはじめとした自動車開発・研究・製造メーカー 日産販売会社をはじめとした自動車整備業界、など ■就職指導内容 ・オリジナルテキストを用いたキャリア形成教育 ・外部講師によるキャリア育成教育 ・就職先採用担当者による就職ガイダンス など ■卒業生数 : 30 人 ■就職希望者数 : 30 人 ■就職者数 : 30 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (令和 4 年度卒業者に関する 令和5年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国家車体整備士</td> <td>②</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>日産車体整備士3級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>日産塗装士3級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>日産テクニカルスタッフ3級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	国家車体整備士	②	30人	30人	日産車体整備士3級	③	30人	30人	日産塗装士3級	③	30人	30人	日産テクニカルスタッフ3級	③	30人	30人								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																	
国家車体整備士	②	30人	30人																																	
日産車体整備士3級	③	30人	30人																																	
日産塗装士3級	③	30人	30人																																	
日産テクニカルスタッフ3級	③	30人	30人																																	
中途退学 の現状	■中途退学者 令和4年4月1日時点において、在学者50名 令和5年3月31日時点において、在学者49名 ■中途退学の原因 進路変更		1名		■中退率 2%																															
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ① 選抜奨学金 特待生奨学金: 1年次授業料 250,000円免除 遠隔地奨学金: 1年次授業料 250,000円免除 ② 特別奨学金 女子奨学金 : 1年次授業料 50,000円免除 企業推薦奨学金: 1年次授業料 50,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																			
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																			
当該学科の ホームページ URL	https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/course/repair.html																																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、自動車整備・ボディリペア科の教育活動について、次の各号に掲げる観点から教育課程の編成に係る提言を行う。

- (1)就職先の業界における人材の専門性に関する動向
- (2)国又は地域の産業振興の方向性
- (3)新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能
- (4)その他、教育課程の編成に関する事項

提言は学校側委員が取り纏めてカリキュラム検討会議に諮って審議したのち、審議結果を校長が決済して次年度以降の教育活動に反映させる。

審議結果、教育活動への反映については、次回の委員会において学校側委員から報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
乗地博之	京都府自動車整備振興会 教育課 課長代理	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
平松由揮	滋賀日産自動車株式会社 副店長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
秋山浩志	兵庫日産自動車株式会社 執行役員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
清水正美	京都府自動車車体整備協同組合 副理事長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
高橋治彦	日産自動車株式会社 グローバルアフターセールス事業本部	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
中村達也	京都サービス株式会社 工場長	令和4年月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
川嶋則生	日産京都自動車大学校 学校長		
鳥井英雄	日産京都自動車大学校 教頭		
大村哲嗣	日産京都自動車大学校 一級課・車体課 課長		
清水昭一	日産京都自動車大学校 自動車課 課長		
遠藤博之	日産京都自動車大学校 一級課 課長代理		
佐藤友彦	日産京都自動車大学校 自動車課(1年・2年) 課長代理		
井上恵太	日産京都自動車大学校 自動車課(国際科) 課長代理		
山瀬匡隆	日産京都自動車大学校 車体科統括		
当麻範嗣	日産京都自動車大学校 教務課 課長代理		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上 開催時期 5月、3月

(開催日時)

<自動車整備>

第1回 令和4年7月8日 10:00~12:00

第2回 令和5年2月24日 10:00~12:00

<車体整備>

第1回 令和4年7月8日 14:00~16:00

第2回 令和5年2月24日 14:00~16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・国家車体整備士の資格試験対策について
受験者全員が合格できるように、教科書を熟読させて、きちんと内容を理解した上で、受験に臨めるように取り組む。
- ・電子制御装置整備の整備主任者講習の実施
学内で実習を実施し、運輸支局での学科講習、諮問に合格できるレベルに育成する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備科(1年次、2年次)に加え、しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、板金塗装を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業からの技術情報を基に授業内容と評価基準を定めている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
板金初級	・車体整備(板金)に関する基礎知識、基礎作業について理解する。	日産自動車株式会社
塗装初級	・自動車塗装に関する塗装基礎、作業工程について理解する。	日産自動車株式会社
板金中級	・パネルの修復に必要な各種修復技術を理解する	日産自動車株式会社
塗装中級	・新品パネルの下地処理を学ぶ。 ・メタリック塗装の手順、基礎を学ぶ。 ・調色の手順、基礎を学ぶ。 ・マスキングの手順、基礎を学ぶ。	日産自動車株式会社
板金上級	・基礎的なフレーム修正作業を理解する ・計測作業を理解する ・溶接パネルの交換作業を理解する ・溶接の応用作業を習得する	日産自動車株式会社

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>教員研修計画に基づき、研修プログラムを企画し、連携企業による研修を実施する。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「電装中級講座」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和4年7月5日(火)～7月7日(水) 対象: 日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容: CAN通信の概要～故障診断を学ぶ</p>
<p>研修名「日産2級整備士必須講座」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和4年7月26日(火)～7月29日(金) 対象: 日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容: CONSULTを用いたエンジンの故障診断、南海不具合の問診方法を学ぶ</p>
<p>研修名「特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習」(連携企業等: 京都府労働基準協会) 期間: 令和4年7月11日(月)～7月12日(火) 対象: 有機溶剤の取り扱いを行う事業所の実務担当者 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する</p>
<p>研修名「ラッピング」(連携企業等: ジャスティス RINDA FACTORY) 期間: 令和4年6月7日(火) 対象: 日産京都自動車大学校車体科教員 内容: カーラッピングに関する知識、ラッピング技術を学び、カスタムカー車両製作に活かす</p>
<p>研修名「新技術・車両診断」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和4年8月2日(火)～8月5日(金) 対象: 整備専門学校のパベラン教員 内容: 前年度以降に登場した新技術や車両診断の方法について実践的に学ぶ</p>
<p>研修名「整備主任者技術研修会」(連携企業等: 京都府自動車整備振興会) 期間: 令和4年9月28日(水) 対象: 整備事業所等の実務担当者 内容: 自動車の特定整備、特定整備記録簿の記載に関してブラッシュアップを図る</p>
<p>研修名「タイヤ空気充てんの特別教育」(連携企業等: ミシュラン) 期間: 令和4年10月26日(水) 対象: 日産京都自動車大学校教員(新任教員のうち未受講者対象) 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する</p>
<p>研修名「普通救命救急講習」(連携企業等: 久御山町消防署) 期間: 令和4年12月3日(土) 対象: 日産京都自動車大学校教員(過去3年間の受講実績なしを対象) 内容: 心肺蘇生法、AEDを用いた応急手当を学び、授業中に事故等が発生した場合の初動対応に備える</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「ICT活用実践研修」(連携企業等: NTTラーニングシステムズ) 期間: 令和4年3月31日(木) 対象: 日産京都自動車大学校全教員 内容: 対面授業で活用する場面を想定した授業を体験し、新年度から実践できる導入ヒントをつかむ</p>
<p>研修名「新任教員教育技法研修」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和4年7月28日(木)～7月29日(金) 対象: 日産京都自動車大学校中堅教員 内容: 教員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくする</p>
<p>研修名「夏季教員研修会」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和4年8月16日(火)～8月19日(金) 対象: 整備専門学校の新任～中堅教員 内容: 授業運営、コーチング、コミュニケーション技法を、全国の専門学校教員による集合教育によりレベルアップを図る</p>
<p>研修名「専修学校教員研修」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間: 令和4年9月3日(土) 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の教員(新任～中堅) 内容: 教員力の向上を図る(FY22テーマ「人の心を動かし、わかる、できる、やれる」を引き出す指導法)</p>

<p>研修名「 新任教員研修 」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会) 期間: 令和4年10月8日(土)、11月5日(土)、11月19日(土) 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の新任教員 内容: 実践心理、カウンセリング理論、職業教育の在り方等、教員の心構えを学ぶ(2年間合計6日の受講が必要)</p>
<p>研修名「 メンタルヘルス対応力向上セミナー vol.2 」(連携企業等: 合同会社にてをは) 期間: 令和4年12月22日(木) 対象: 日産京都自動車大学校 新任教員 (vol.1未受講者対象) 内容: メンタルヘルス不全の早期発見、初期対応力を学ぶ</p>
<p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「 電動パワートレイン基礎+技術講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和5年7月18日(火)~7月21日(金) 対象: 日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容: 電動パワートレインの整備に必要な知識を学ぶ</p>
<p>研修名「 車体・シャシー音振講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和5年9月12日(火)~9月15日(金) 対象: 日産販売会社の整備士、日産自動車株式会社大学校教員 内容: 車体・シャシーに係る</p>
<p>研修名「 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習 」(連携企業等: 京都府労働基準協会) 期間: 令和5年7月頃 対象: 有機溶剤の取り扱いを行う事業所の実務担当者 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する</p>
<p>研修名「 はんだ付け・配線カシメ講座 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和5年4月21日(水) 対象: 日産京都自動車大学校車体科教員 内容: 学生フォーミュラの製作に必要な技術を習得する</p>
<p>研修名「 EV車検 」(連携企業等: マツダ株式会社 トヨタ自動車株式会社) 期間: 令和5年5月27日(土) 対象: 日産京都自動車大学校車体科教員 内容: 学生フォーミュラの模擬車検を通して、本番でEV車検をスムーズに実施できることを学ぶ</p>
<p>研修名「 ラッピング 」(連携企業等: ジャスティス RINDA FACTORY) 期間: 令和5年5月19日(金) 対象: 日産京都自動車大学校車体科教員 内容: カーラッピングに関する知識、ラッピング技術を学び、カスタムカー車両製作に活かす</p>
<p>研修名「 新技術・車両診断 」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和5年8月上旬 対象: 整備専門学校のパイロット教員 内容: 前年度以降に登場した新技術や車両診断の方法について実践的に学ぶ</p>
<p>研修名「 整備主任者技術研修会 」(連携企業等: 京都府自動車整備振興会) 期間: 令和5年9月 対象: 整備事業所等の実務担当者 内容: 自動車の特定整備、特定整備記録簿の記載に関してブラッシュアップを図る</p>
<p>研修名「 タイヤ空気充てんの特別教育 」(連携企業等: ミシュラン) 期間: 令和5年10月24日(火) 対象: 日産京都自動車大学校教員(新任教員のうち未受講者対象) 内容: 授業で取り扱うため法定の講習を受講する</p>
<p>研修名「 普通救命救急講習 」(連携企業等: 久御山町消防署) 期間: 令和5年11月25日(土) 対象: 日産京都自動車大学校教員(過去3年間の受講実績なしを対象) 内容: 心肺蘇生法、AEDを用いた応急手当を学び、授業中に事故等が発生した場合の初動対応に備える</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「 新任教員教育技法研修 」(連携企業等: 日産自動車株式会社) 期間: 令和5年7月27日(木)~7月28日(金) 対象: 日産京都自動車大学校中堅教員 内容: 教員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくする</p>
<p>研修名「 夏季教員研修会 」(連携企業等: JAMCA全国自動車大学校・整備専門学校協会) 期間: 令和5年8月中旬 対象: 整備専門学校の新任~中堅教員 内容: 授業運営、コーチング、コミュニケーション技法を、全国の専門学校教員による集合教育によりレベルアップを図る</p>

研修名「専修学校教員研修」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会)
 期間: 令和5年9月
 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の教員(新任～中堅)
 内容: 教員力の向上を図る(FY22テーマ「人の心を動かし、「わかる、できる、やれる」を引き出す指導法)

研修名「新任教員研修」(連携企業等: 京都府専修学校・各種学校協会)
 期間: 令和5年10月～11月の間のうち3日間
 対象: 京都府内の専修学校、各種学校の新任教員
 内容: 実践心理、カウンセリング理論、職業教育の在り方等、教員の心構えを学ぶ(2年間合計6日の受講が必要)

研修名「キャリアデザイン」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 令和5年8月
 対象: 専修学校、各種学校の教員
 内容: 主体的かつ自律的に将来設計を行い、学校と自分が成長するアクションプランニングを学ぶ

研修名「学級経営・学生対応」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 令和5年8月
 対象: 専修学校、各種学校の教員
 内容: 学生への効果的な動機付け手法、教員個々の指導力、教員間連携の強化、効果的なクラス運営等を学ぶ

研修名「リスクマネジメント」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 令和5年8月
 対象: 専修学校、各種学校の教員
 内容: 代表的な事例をもとに対応の手順や留意点を知り、問題解決に活かす

研修名「留学生就職支援」(連携企業等: TCE職業教育・キャリア教育財団)
 期間: 令和5年8月
 対象: 専修学校、各種学校の教員
 内容: 留学生に特化した就職支援の在り方を学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 学校評価の目的は、学校運営・教育活動の改善であり、学校関係者評価は、自己評価結果の客観性・透明性を確保することを目標としている。本校の専攻分野に通じた関係者からの提言、助言は、学内に周知徹底すると同時に、内容を十分分析し、対策案、取り組みの時期の検討につなげていく。
 対策結果を、次年度の評価で学校関係者の評価をいただくサイクルを継続して回していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか 【1-2】学校における職業教育の特色はなにか 【1-3】社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 【1-4】学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか。
(2) 学校運営	【2-1】目的等に沿った運営方針が策定されているか 【2-2】運営方針に沿った事業計画が策定されているか 【2-3】運営組織や意思決定機能は、規則等により明確化されているか、また、有効に機能しているか。 【2-4】人事・給与に関する制度は整備されているか 【2-5】教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されているか 【2-6】業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 【2-7】教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 【2-8】情報システム化等による業務の効率化が図れているか

(3)教育活動	<p>【3-1】(目標の設定等)教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p> <p>【3-2】(目標の設定等)教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>【3-3】(教育方法・評価等)学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>【3-4】(教育方法、評価等) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか。</p> <p>【3-5】(教育方法、評価等)関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われている</p> <p>【3-6】(教育方法、評価等)関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習棟)が体系的に位置づけられている。</p> <p>【3-7】(授業方法、評価等)授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>【3-8】(授業方法、評価等) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p> <p>【3-9】(授業方法、評価等) 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p> <p>【3-10】(資格試験) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中の体系的な位置づけはあるか</p> <p>【3-11】(教職員) 人材育成目標の達成に向け授業を行なうことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>【3-12】(教職員)関連分野における業界等との連携において、優れた教員(本務・兼務を含む)を確保しているか</p> <p>【3-13】(教職員)関連分野における先端的な知識技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われている。</p> <p>【3-14】(教職員)職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>
(4)学修成果	<p>【4-1】就職率の向上が図られているか</p> <p>【4-2】資格取得率の向上が図られているか</p> <p>【4-3】退学率の低減が図られているか</p> <p>【4-4】卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p> <p>【4-5】卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</p>
(5)学生支援	<p>【5-1】 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p>【5-2】 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>【5-3】 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p>【5-4】 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>【5-5】 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>【5-6】 学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>【5-7】 保護者と適切に連携しているか</p> <p>【5-8】 卒業生への支援体制はあるか</p> <p>【5-9】 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</p> <p>【5-10】 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか</p> <p>【5-11】 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか</p>
(6)教育環境	<p>【6-1】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>【6-2】学外実習・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>【6-3】防災に関する体制は整備されているか</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>【7-1】 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか</p> <p>【7-2】 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>【7-3】 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか</p> <p>【7-4】入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>【7-5】 学納金は妥当なものとなっているか</p>

(8)財務	【8-1】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 【8-2】 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 【8-3】 財務について会計監査が適正におこなわれているか 【8-4】 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	【9-1】法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 【9-2】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 【9-3】自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 【9-4】自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	【10-1】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 【10-2】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 【10-3】地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・板金及び塗装の各工程管理を、実際の現場に則って取り組むことができるよう学習指導方法に反映(追加)する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
桐本利博	(社) 京都自動車整備振興会 専務局長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日 (2年)	団体代表
三浦直也	(株) 京都日産 執行役員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日 (2年)	企業代表
川畑利彦	(株) 近畿日産 監査支援部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日 (2年)	企業代表
竹本尚人	京都府立田辺高校 自動車科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日 (2年)	高校代表
西村 剛	正和自動車販売株式会社 会長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日 (2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<https://wp.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/wp-content/uploads/2023/06/6cbd365d1b7e6208302d782e4bbce706.pdf>

令和5年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広く学校関係者(学生、保護者、関係する業界、企業等)に対して、教育活動等の情報提供により、公的教育機関としての説明責任を果たすと同時に、広く、当校の特色をアピールする機会とする。

また、教育活動の課題も示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。
提供する情報は、「情報提供等への取り組みに対するガイドライン」(文科省)に準じて行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念 ・人材養成の目標及び教育指導計画 ・学校の特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他の諸活動(学校安全・保健対策)
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の受け入れ方針、收容定員、入学生数・在学学生数 ・学科の特色 ・カリキュラム ・成績評価 ・進級・卒業要件 ・資格取得、検定合格実績 ・卒業生数 ・卒業後の進路 ・シラバス
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性 ・校務分掌
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み状況 ・実習/実技への取組状況 ・就職支援等への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み状況
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活の組織 ・学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金 ・学費サポート
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支、消費収支、貸借対照表、監査報告
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れ ・海外交流
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/kyoto/infomation.html>

公表時期: 令和5年6月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備・ボディリペア科) 令和5年度																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			自動車工学基礎	1. 自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。 2. 自動車に係る基本的な原理、原則を理解する。 3. 国家2級試験 工学分野の計算問題を理解する。	1通	62		○			○		○		
2	○			エンジン構造基礎	1. ガソリン・エンジンの構造、作動の理解。 2. 電子制御装置の構造、作動の理解。 3. ジーゼル・エンジンの構造、作動の理解。	1通	86		○			○			○	
3	○			シャシ構造基礎	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。 2. アクスル及びサスペンションの構造、作動を理解する。 3. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの要素や役割を理解する。 5. ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造、作動を理解する。 7. タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1通	82		○			○			○	
4	○			電装品構造基礎	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。 3. 始動装置の構造、作動を理解する。 4. 暖冷房装置の構造、作動を理解する。 5. 灯火装置の構造、作動を理解する。 6. 計器装置の構造、作動を理解する。 7. 自動車に使用されている半導体の役割、作動を説明できる。 8. 充電装置の構造、作動を理解する。 9. 点火装置の構造、作動を理解する。 10. 予熱装置の構造、作動を理解する。 11. 多重通信の概要を理解する。	1通	60		○			○			○	
5	○			整備機器取扱	1. 自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1前	23		○		△	○			○	
6	○			エンジン分解組立	1. ガソリンエンジンの構造がわかる 2. エンジン主要部品の名称・役割がわかる 3. 工具・装置の正しい使用方法と安全配慮ができる 4. ファンベルトの脱着ができる 5. 計測機器の正しい使用と正確な測定が出来る。	1前	36					○	○		○	
7	○			基礎整備	1. 車両の基本的部分の名称と取扱方法の基本を理解し、安全な作業ができるようにさせる。 2. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができるようにさせる。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。 4. 基本的な点検の必要性を理解し、点検及び交換作業・良否判定ができるようにさせる。	1前	36					○	○			○
8	○			基本電装	1. オームの法則を使い、回路の計算ができる 2. オームの法則を使い、抵抗値、電流値、電圧値を推理できる 3. サーキット・テスタの使用し、回路の測定が出来る。 4. コイルの特徴を実験や測定することで理解を深める。 5. オンロスコープの取り扱い、注意点を学び、直流と交流の違いを理解できる。	1前	36					○	○			○

21	○		ブレーキ2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中・大型車のブレーキ点検方法、整備方法を学習する。 2. ブレーキ・キャリパ、ホイール・シリンダの点検整備方法に習熟する。 3. 真空式制動倍力装置の構造および作動を理解する。 4. 固定型キャリパのパッド脱着が出来る。 5. パーキング・ブレーキの隙間および引き代調整が出来る。 	1後	36						○	○					○
22	○		自動車工学応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家二級試験 工学分野の問題が解け、理論説明が出来る。 2. 国家二級試験 工学分野の問題を理解する。 3. 国家二級試験 電装分野の問題を理解する。 4. 国家二級試験 バルブタイミングの問題を理解する。 5. 全教科書の内容を登録試験問題を中心に理解する。 	2通	99					○	△	○					○
23	○		エンジン構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. LPG・CNG等の燃料装置を理解する 2. エンジンの電子制御を理解する。 3. 4ストローク1サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。 4. 冷却装置の構造、種類、作動を理解する。 5. 潤滑装置の構造、作動を理解する。 6. 吸排気装置の構造、種類、作動を理解する。 7. ガソリン分野では、過給器の構造、種類、作動に関して及び、可変吸気装置、EGR装置について理解する。 8. ジーゼル分野では、可変容量式ターボチャージャ、排気ガス後処理装置に関して、理解する。 9. ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、種類、作動を理解する。 10. エンジンの整備と故障探求の方法を理解する。 	2通	58					○		○					○
24	○		シャシ構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 走行抵抗の種類などを理解する。 2. LSDの構造、作動を理解する。 3. パワーステアリング装置の構造、作動を理解する。 4. ホイールアライメントの役割を理解する。 5. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 6. フレーム及びボデーの構造・機能を理解する。 7. 故障診断の考え方を理解する。 	2通	74					○		○					○
25	○		電装品構造応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーの機能を理解する。 2. 空気調和装置を理解する。 3. 始動装置を理解する。 4. 充電装置を理解する。 5. 点火装置について理解する 6. 予熱装置について理解する。 7. 計器について理解する。 8. 電気装置について理解する。 9. 安全装置について理解する。 	2通	48					○		○					○
26	○		自動車法規	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道路運送車両法の目的を理解する。 2. 道路運送車両法の検査等を理解する。 3. 自動車の整備事業について理解する。 4. 自動車の保安基準に定められている数値を覚える。 	2後	40					○		○					○
27	○		整備知識	日産資格制度の内容をもとにTS3級の知識を身に付ける	2後	15					○		○				○	
28	○		サスペンション応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクスル及びサスペンションの概要・役割を理解する。 2. Frサスペンション部品の脱着ができる。 3. ドライブ・シャフトの脱着ができる。 4. エアサスペンションの構造、作動を理解する。 5. エア製造系の構造と作動を理解する。 	2前	36						○	○					○
29	○		A/T	<ol style="list-style-type: none"> 1. オートマチック・トランスミッションの構造、作動を理解する。 2. トルク・コンバータのトルク増大作用及び性能曲線の見方を理解する。 3. プラネタリ・ギヤ・ユニットの増減速を理解する。 4. オートマチック・トランスミッション内部における動力の伝達経路を理解する。 5. 電子制御式オートマチック・トランスミッションの各ソレノイドの役割、コントロールバルブ及び油路を理解する。 	2前	36						○	○					○

41	○		総合整備	<ul style="list-style-type: none"> 1. 日産3級技能要件の確認 2. コンサルトⅢの取扱いが出来る。 3. 各種点検(新1、新6、安心6か月)が出来る。 4. 各種作業(ブレーキ、エンジン周り、バンク修理等)が出来る。 5. 車両取扱い時の注意事項を熟知している。 6. 就職後の車両取り扱い・作業全般を身に付ける 	2後	36						○	○						○		
42	○		電気自動車	<ul style="list-style-type: none"> 1. EV基礎教育の修了(低圧電気取扱い者講習修了) 2. 先進安全装備のキャリブレーションの知識が習得できる 	2後	36						○	○						○		
43	○		電装品整備3	<ul style="list-style-type: none"> 1. 回路図から不具合箇所を推定し、テスターで証明することができる 2. 電流、電圧降下の点検ができ測定結果から正常・異常の判断が出来る。 3. オートエアコンの概要を理解する。 4. オートエアコンに使用されているセンサと取付位置、役割を理解する。 5. オート・ライトの作動および感度調整要領を理解する。 6. ウィンドウ撥水の施工方法を理解し実際に施工できる 	2後	36						○	○						○		
44	○		日産3級	日産販売会社の整備士として修得すべき知識を学習する。	2後	35					○		○						○		
45	○		国家試験対策講座	国家試験に向け、すべての授業を総復習し、理解の確認をブラッシュアップする。	2後	65					○		○						○		
46	○		事故見積り	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教科書により事故見積りの必要性を理解する。 2. 教科書により見積書の重要性を理解する。 3. 教科書、参考資料により指数を理解する。 4. 教科書によりレバレットを理解する。 5. 写真見積りを練習することにより見積りを出来るようにする。 	3後	30					○		○						○		
47	○		車体整備概論	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自動車の車体材料を理解する 2. 乗用車の構造・機能を理解する 3. トラックの構造・機能を理解する 4. はりの種類、荷重分布の計算方法を理解する 	3前	30					○		○							○	
48	○		車体塗装理論	<ul style="list-style-type: none"> 1. 塗装の目的や塗装方法を理解する。 2. 塗料の成分を理解する。 3. 塗装の設備や工具の取り扱いを理解する。 4. 塗装作業での安全や衛生について理解する。 	3前	22					○		○							○	
49	○		車体整備理論	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各種板金作業を理解する 2. 各種フレーム修正機について理解する 3. 乗用車、トラックの整備について理解する 4. 損傷診断について理解する 	3前	34					○		○							○	
50	○		車体溶接理論	・各種溶接作業を理解する	3後	20					○		○						○		
51	○		総合工学	1. 日産の車体士、塗装士として認定する試験に必要な知識を身に付ける。	3後	24					○		○						○		
52	○		車体工学演習	1. 国家車体整備士学科試験合格のための基礎学力の向上を図る。	3後	70					○		○						○		
53	○		板金初級	<ul style="list-style-type: none"> 1. 車体整備(板金)に関する基礎知識、基礎作業について理解する 2. 絞り修正作業(電気絞り)を理解する 3. ガス溶接に関する基礎知識、基礎作業について理解する 	3前	78						○	○						○	○	
54	○		塗装初級	<ul style="list-style-type: none"> 1. エアブラシを体験する。 2. パテの種類を理解する 3. フェザーエッジ出しを習熟する 4. 面出しを習熟する 5. 自動車塗装に関する塗装基礎、作業工程について理解する。 	3前	78						○	○							○	○

55	○		板金中級	1. 粗出し作業を習得する 2. 絞り作業を習得する 3. 整形作業を習熟する 4. 仕上げ作業を習熟する 5. MIG溶接作業を習得する 6. 整形作業の習熟する 7. 仕上げ作業を習熟する 8. 穴埋め作業の体験	3前	110							○	○			○	○
56	○		塗装中級	1. 新品パネルの下地処理を学ぶ。 2. メタリック塗装の手順、基礎を学ぶ。 3. 調色の手順、基礎を学ぶ。 4. マスキングの手順、基礎を学ぶ。	3前	110							○	○			○	○
57	○		板金上級	1. 基礎的なフレーム修正作業を理解する 2. 計測作業を理解する 3. 溶接パネルの交換作業を理解する 4. 溶接の応用作業を習得する	3後	126							○	○			○	○
58	○		塗装上級	1. 全塗装を体験する 2. 側面塗装を体験する 3. 実作業工程のノウハウを体験する 4. パネル塗装を体験する 5. クイック補修に関する技術・知識を習得する。	3後	126							○	○			○	○
59	○		総合実習	1. 日産の車体整備士として求められる技能レベルに到達する。 2. 各個人の車両を使って技能レベル向上と、車両の取り扱いを習熟する。	3後	42							○	○			○	○
合計				59 科目	2,800単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、60点以上で履修とする。 必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ卒業を認める。	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。